

令和 4 年度教育委員会の事務の点検および評価報告書（案）に対する各委員からの意見・疑問点等

1 報告書についての意見・疑問点等

(1) 教育委員会の活動状況に関する点検・評価

(なし)
------

(2) 教育委員会の施策に関する点検・評価

全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価（進捗，成果，課題）の点数に幅を持たせたことにより，進捗状況が分かりやすくなり，評価の客観性が増していると思います。</li> <li>・ 全体としては，コロナ禍の中，教育委員会が一体となり，創意工夫し目標達成に向けて取り組まれた足跡が窺える報告書だと思います。一方で，基本目標 3 の函館への愛着や誇りと未来へ飛躍する力の育成等，◎の項目がない目標もあり，子供たちにとっても，地域にとってもかけがえのない 1 年であったことを考えると，コロナ禍 2 年目は，さらに工夫の余地が残されていたのではないかと感じます。</li> <li>・ 評価が出ない事業や 1 番評価の低い採点が出ていた事業がいくつかあったかと思えます。今後，また同じ項目を作るのか，改善した項目を作るのか，項目から外すのかが気になりました。あとは素晴らしいなど感じました。</li> <li>・ SDGs について，各種報道や各企業・店舗の取組により，市民の関心が高まったり理解が深まったりすることは非常に良いことだと考えている。ただし，2030 年までに達成する目標であるということ抜かして SDGs を知っている人も多く，時間を切って目標を達成するという意識がなければ，単なるブームで終わってしまうのではないかと危惧している。SDGs を取り入れて市の教育を進めるのであれば，少なくとも 10 年計画の最終年度までにここまで達成するというような目安をもって取組を進めていく必要があるのではないかと。</li> </ul>
P18-22	<p><b>基本目標 1 変化する社会を生きる力の育成</b>  <b>施策 1 確かな学力を育む教育の推進</b>  <b>1 授業改善の推進 (P18~22)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校教育指導資料，学校教育指導での指導・助言，研修事業，加配等については有効であり継続して取り組むことが重要である。ただし，教員一人ひとりの「主体的・対話的で深い学び」の具体的な実践状況についての的確に把握する必要がある（単なるキャッチフレーズになっていないか）。</li> </ul>
P22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 函館市として課題のある算数科への市独自の人材配置，準備等に時間を要する理科専科の配置について，現場としても有り難くたいへん評価できる。</li> </ul>
P23	<p><b>2 学習の基礎となる資質・能力を育む活動の充実 (P23~27)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後とも各学校における読書活動，学校図書館の充実を積極的に取り組むべき課題だと思う。</li> </ul>
P24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校司書の配置拡大による，学校図書館の充実を強く実感する。「学校図書館写真集」の HP 上の掲載も成果を発信する方法として効果的であった。</li> </ul>
P25-27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の「ICT活用能力」の向上は当然であり，目指すところは児童生徒の「ICT活用能力」を向上させる教員の ICT 活用指導能力</li> </ul>

P25	<p>の向上ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「一人一台端末の効果的な活用」は今後の教育に不可欠な取組であり、「GIGAスクール構想」とは別に早急に取り組む必要がある。状況によっては、生徒のスマホ使用なども検討していくべきだと思う。</li> <li>・ GIGAスクールサポーターの配置によりICTを活用した授業改善や効果的な学習が進められるようになったことは大変よかった。今年度は活用する教職員がさらに増えることが期待される。</li> <li>・ GIGAスクールサポーターの配置により、学校におけるICT化が加速度的に進展したと感じている。</li> <li>・ 実践事例を紹介することは素晴らしいと思いました。今後は一方通行の紹介ではなく、各校でできること、できないことをはっきりさせて、活かしていただけるといいと思う。ICTを広めていくためには、時間はかかるかもしれないが深い知識を持った人が増えなければならない。若い人を中心に互いに講習を行い、知識を広げるしかないと考えます。</li> </ul>
P28	<p><b>3 学習習慣の定着に向けた取組の推進 (P28~29)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究モニター校においては、学習用端末の効果的な活用が推進されていると感じている。</li> </ul>
P29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の基礎となる資質・能力を育む活動の充実(1-2)との関連もあるが、望ましい「生活リズム」の定着が様々な教育課題の解決の基盤となるのではないか。</li> <li>・ 望ましい生活習慣や学習習慣の定着には家庭の協力が不可欠であるが、生活環境に課題が見られる家庭では日常の生活だけで精一杯な家庭もあると思われる。そのような家庭への協力要請をどのように進めていくのか。</li> </ul>
P30-34	<p><b>施策2 豊かな心を育む教育の推進</b></p> <p><b>1 いじめの未然防止等に係る取組の推進 (P30~34)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ こころの相談員、スクールカウンセラー、ネットパトロール等は児童生徒の問題行動の実態把握、未然防止、早期発見・早期対応に有効であり、今後も継続して取り組む必要がある。重要なのは各学校における相談員やカウンセラー等との連携・協力であり、その体制づくりに援助・支援を行う必要がある。また、各学校における「いじめ等防止基本方針」等の継続的な見直しと、教職員や保護者、地域住民の自覚化・意識化を高めることが必要である。</li> </ul>
P30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーフレットの配付や集会の開催、こころの相談員の配置などいじめの未然防止等に係る函館市の地道な取組は高く評価できる。</li> </ul>
P31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめ根絶、未然防止について、様々な取組を実施しているにも関わらず、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答する児童生徒が100%とならない状況は残念である。学校だけではなく、社会全体で「いじめ」がなくなる限りは難しいと考える。</li> </ul>
P33	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校へのスクールカウンセラーの配置により成果を感じている学校も多いと思う。さらに柔軟に小学校でも活用できるようになればと願っている。</li> </ul>
P35-38	<p><b>2 道徳教育の推進 (P35~38)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育の充実、豊かな心の育成、学力の向上に関して「生徒指導の機能を生かした教育活動」の実践が重要であり、それが、考え、議論する道徳科の実践、生命を尊重する態度の育成、自己有用感の高揚などにつながると思う。</li> </ul>
P37	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけな</li> </ul>

	いことだと思いませんか」という設問に対し多くの児童生徒が「当てはまる」と回答しているが、そのように回答しなかった児童生徒がどのような考えなのか興味深い。
P39 P41	<p><b>3 体験活動等の充実 (P39~41)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域が連携した体験活動は重要だが、具体的な取組例を紹介することにより取組が広がっていくのではないか。</li> <li>今後、部活等の地域支援者の活用は不可欠だと思われる。ただし、教育活動の一環であることへの理解を図るとともに、過剰な勝利至上主義の排除、体罰の根絶などに関する研修も充実させる必要がある。</li> <li>部活動における教員の負担軽減において、大きな成果をあげていると感じる。さらに、部活動地域支援者（部活動指導員）の配置を進めてほしい。</li> <li>地域部活動への移行を進めていこうとするスポーツ庁の方針に基づいた対応が求められる。大会引率が可能な部活動指導員の配置は、道教委の対応も必要と考えるが、どうか。</li> <li>部活動地域支援者を、多くの学校で取り入れることで、指導教員の技術による格差を少なくし、どの地域でもレベルの高い指導を受けられると思う。</li> <li>義務教育の部活動は3年後にはなくなるという事ですが、働き方改革を理由として顧問になりたくてもできない若い先生がいると聞いたことがある。そう仰っていた保護者は、顧問の先生はボランティアで指導しており、働き方改革と言われても仕方ない。学校の給料とは別にきちんと手当をあげるような体制が必要だと思う。指導者がいない場合は、CSコーディネーターから引率者を手配できないであろうか。</li> <li>ある元オリンピック選手は「大人に対する指導と子供に対する指導は別でなければならない。」と言っていた。現在は一緒になっているため、児童生徒には戦術を教えることも大事だがチームワークと礼儀などのスポーツマンシップを指導いただきたいです。また、学校での部活動を通しての学びもあると考えている。例えば、鬼監督の授業はしっかりと聞かねばならない等の縦社会を肌で感じる絶好の機会でもあると私は思う。そして、中体連は今後どのようになっていくのか疑問である。名称は変更されるのか？地域のチームも参加することになるのか？合同チームは上の大会には参加できないとも聞く、会費はどうするのか？ご検討いただきたい。</li> </ul>
P42-46 P43 P44	<p><b>施策3 健やかな体を育む教育の推進</b></p> <p><b>1 学校保健・学校体育の充実 (P42~46)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の健康に関する各施策はたいへん重要であり、今後とも継続した取組が必要である。</li> <li>朝食摂取率や食育は、家庭での食生活に大きく影響していると思われる。学校での食育は今後も継続できるが、家庭での食生活に学校が口を出すことはなかなか難しい面がある。</li> <li>朝食摂取率は、全国と比較しても毎年低い結果になっている。朝食を食べていない結果は子育て委員に提案して、食育の大切さを保護者に伝えていければいいと考えます。特に北海道は全国から見ても低い。さらには肥満傾向の子供も20%ほど高いと聞く。アレルギーに関しても全国より発生率が高いデータもある。地域性もあるのかしっかりとエビデンスを出して改善していかなければいけない問題だと考える。</li> <li>フッ化物洗口は、コロナで見送ってきてはいるが、マスクをすること</li> </ul>

	<p>で口呼吸が増えており，口内の衛生が保たれていない傾向にあるようだ。歯科検診の結果をまとめる必要があり，家庭内にお知らせいただきたいです。</p>
P47-51	<p><b>2 学校給食の充実と食育の推進 (P47~51)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校保健・学校体育の充実(3-1)の「朝食摂取率」と関連するが，給食が1日の大切な食事となっている児童生徒の実態把握，食物アレルギーの実態把握などを充実させる必要がある。</li> </ul>
P47	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険異物混入事案の発生は残念なことであるが，安全・安心な給食の提供に向けて，市教委として最大限の取組を進めていると感じている。</li> </ul>
P49	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険異物混入が基準を満たしていない調理場に原因があるとなれば，早急に改修が必要と思う。耐震化対策など学校の安全に取り組んでいただいたが，安全な給食の提供への対応もお願いしたい。</li> <li>人件費，調理器具の整備，設備の維持を考えると，スクールランチというのも選択肢に入ってくるのでしょうか？地産地消の実施， Disposable 食器への遷移など，地域経済の活性化と衛生面の両立で温かく，おいしいご飯を子供達に食べさせ，健康に育てて欲しいと考えます。</li> <li>朝食の摂取率や食育は，家庭での食生活に大きく影響していると思われる。学校での食育は今後も継続できるが，家庭での食生活に学校が口を出すことはなかなか難しい面がある。(再掲)</li> </ul>
P52-54	<p><b>3 安全に関する教育の推進 (P52~54)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活安全，交通安全，災害安全などの取組は重要であり評価できる。今後は，コロナ対応はもとより，以前の「Jアラート」のような突発的な事態に対応するためのマニュアルの作成に各学校で取り組む必要がある。</li> </ul>
P55-56	<p><b>施策4 幼児教育の充実</b></p> <p><b>1 幼児教育の質の向上 (P55~56)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育園，私立幼稚園等との縦横の連携を進めることが重要な課題であり，育児相談や教職員の研修等も連携した取組が必要である。</li> </ul>
P56	<ul style="list-style-type: none"> <li>「幼児教育センターとしての機能」は誤解を招く表現のように感じる。また，現状，そのような機能を果たすことが可能なのか疑問を感じる。</li> </ul>
P57	<p><b>2 小学校教育との円滑な接続 (P57)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校区内の保育園，幼稚園との連絡・連携会議や研修等は小学校が窓口となって進めるべきではないか。</li> <li>小学校教育のカリキュラムとの連続性を確保することは，学校現場の実態を見たときにとっても重要と感じる。</li> </ul>
P60-61	<p><b>施策5 多様なニーズに対応した取組の充実</b></p> <p><b>1 特別支援教育の充実 (P58~62)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な傾向があり，教育上特別な配慮を必要とする児童生徒は各学校に多く在籍していると思われる。そのため，サポートチームや支援員のニーズは高まっており，配置などについての取組は大いに評価されるべきだと思う。</li> </ul>
P61	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育支援員の配置は学校現場に定着し，大きな成果を上げているものと感じている。</li> </ul>

P63-67	<p><b>2 不登校児童生徒等への支援 (P63~67)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策1, 2と関連するが、現在の不登校児童生徒への支援は充実しており、今後とも継続していく必要がある。実態把握や保護者等への情報発信・受信、学校以外の児童生徒の居場所づくりなどの一層の充実を図る必要がある。</li> </ul>
P63-65	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校に来られない児童生徒に対し、学校にどうにか登校させようとするのではなく、フリースクール等と連携し、一人ひとりに合わせた指導を目指しているのは良いと思う。学校だけの問題としてしまうと、教員の負担が大きくなりすぎる。</li> </ul>
P63	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育相談や生徒指導の研修に力を入れており、市としての意識の高さを感じたいへん評価できる。</li> <li>・ 不登校児童生徒が増加する状況において、ICT端末を使った個に応じた学習機会の確保など、具体的な取組を進めたことは大変効果的だったと思う。児童生徒のニーズに合わせた学習機会の保障を今後も進めることに期待する。</li> <li>・ 核家族化によって、地域とのかかわりも低下している。町内会も高齢化している。今年は久しぶりの七夕練り歩きにもかかわらず、笹を出している家も非常に少ない。景気回復やコロナ収束後も以前の函館文化に戻ることは難しいと考える。地域とのかかわり、人と人とのつながりが増えることで近所との会話が増える事で不登校も減ってくると考える。地域との会話が時代にそぐわないのであれば、動画配信などでクラスの授業を受けられる環境を作ることも検討課題であると思います。</li> </ul>
P65	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フリースクールや民間施設等との連携の幅が着実に広がってきており評価できる。</li> </ul>
	<p><b>3 就園・就学に対する支援 (P68~69)</b> (意見等なし)</p>
P71-73	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の安全確保、教育活動の充実に向けた建物、施設・設備の改修等は今後とも継続して取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
P74	<p><b>基本目標2 地域とともにある学校づくりの推進</b> <b>施策1 家庭・地域との連携・協働の推進</b> <b>1 家庭・地域と一体となった学校運営の推進 (P74~79)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CSの活動充実にはコーディネーターの存在が非常に大きいと感じている。人材の確保が今後大切と感じる。</li> </ul>
P77	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティ・スクールの導入後の成果と課題をどのように市民に対して周知するかを検討が必要である(特に各学校の保護者や地域住民に対する周知の方法や時期)。</li> </ul>
P79	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館開放にも人件費がかかる。司書を増やすよう教育委員会、PTAやCSに依頼し、利用しないような本もたくさんの方が触れることで本も生き返ると思う。PTAやCSに読み聞かせやお勧めの本の紹介をしてもらえると本離れしている児童生徒に本を近づけると思います。</li> </ul>
	<p><b>施策2 学校における指導体制等の充実</b> <b>1 校務運営および指導体制の工夫・改善 (P80~83)</b></p>
P80-81	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学校が、学校経営指導訪問、学校教育指導に対して質問や指導されたい内容などを積極的にリクエストすることが学校経営、運営の改善に重要であり、各学校が訪問指導を活用する意識を高める必要がある。</li> </ul>
P81	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要請訪問のほかに、学校のニーズに応じた訪問研修は選択の幅が広が</li> </ul>

	り、研修の充実につながっている。
P84	<p><b>2 業務改善に向けた取組の推進 (P84~87)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>働き方に対する意識は確実に高まっており、働き方のスタンダードとして定着してきていると感じる。</li> <li>小学生の場合、上手に学校での出来事を話せていない。それを補うように担任の先生からの学級通信が存在するため、保護者もかなり期待している。だが、この学級通信が担任の先生にとっては非常に重い作業の一つであることも保護者はわかっている。いっその事、小学校も中学校、高等学校の様に専科の授業になれば担任の先生の負担も減るのではないかと考える。専科の先生は授業の様子を担任に簡単に伝え、そのまとめを学級通信にする。是非担任の先生に時間を差し上げて欲しいと思います。</li> <li>学習指導員や教員業務支援員などの学校サポーターを増やすため、HPに載せているからというだけでなく、SNSや市政はこだてなどに目立つように載せる必要があると考える。発信が足りないと感じます。</li> </ul>
P85-87	<ul style="list-style-type: none"> <li>この数年で教員の時間外勤務の解消が進んできていると思う（物理的に在校時間を減らすことは進められている）。もちろん非常勤講師や部活動地域支援者の配置や校務支援システムの活用も有効であるが、研修等により教員個々が自身の資質能力を高めることが大切だと思う。そのために、研修内容の一層の充実と研修意識の高揚が必要ではないか。 ※先生方が一生懸命に業務に取り組んでいることを重々承知の上で、2時間かかっていた仕事を質が高いままを1時間で行うことができる資質能力を身に付ければ時間的な余裕が出てくるかも知れない。</li> </ul>
P86	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の範囲を拡大し、チーム数を減らし、指導者・引率者の確保しか思い浮かばない。また、地域の指導者となれば教員ではないため、指導に熱が入り、保護者とのトラブルに発展してしまうのではないかと危惧するところである。また、41 ページとも共通の話題にはなるが、<b>中体連は今後どのようなようになっていくのか疑問である。名称は変更されるのか？地域のチームも参加することになるのか？合同チームは上の大会には参加できないとも聞く、会費はどうするのか？ご検討ください。</b></li> </ul>
P87	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムも函館市のスタンダードとして定着してきていると感じる。</li> </ul>
P88-90	<p><b>3 教職員の資質能力の向上 (P88~90)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この数年で教員の時間外勤務の解消が進んできていると思う（物理的に在校時間を減らすことは進められている）。もちろん非常勤講師や部活動地域支援者の配置や校務支援システムの活用も有効であるが、研修等により教員個々が自身の資質能力を高めることが大切だと思う。そのために、研修内容の一層の充実と研修意識の高揚が必要ではないか。 ※先生方が一生懸命に業務に取り組んでいることを重々承知の上で、2時間かかっていた仕事を質が高いままを1時間で行うことができる資質能力を身に付ければ時間的な余裕が出てくるかも知れない。（再掲）</li> </ul>
P91-93	<p><b>施策3 学校間の連携・接続</b></p> <p><b>1 学校間の縦の連携・接続 (P91~93)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでも中学校区での縦横連携が進められてきており、今後もそれを基本に充実させていくことが重要だと思う。ただし、学校再編等により近隣校の距離的なつながりも変化してきているので、少なくとも生徒指導上の共通した指導や学校での研究内容の共有などはこれまで同様</li> </ul>

	に進めていく必要がある。
P94	<p><b>2 学校間の横の連携 (P94)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで中中学校区での縦横連携が進められてきており、今後もそれを基本に充実させていくことが重要だと思う。ただし、学校再編等により近隣校の距離的なつながりも変化してきているので、少なくとも生徒指導上の共通した指導や学校での研究内容の共有などはこれまで同様に進めていく必要がある。(再掲)</li> </ul>
P95	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで中中学校区での縦横連携が進められてきており、今後もそれを基本に充実させていくことが重要だと思う。ただし、学校再編等により近隣校の距離的なつながりも変化してきているので、少なくとも生徒指導上の共通した指導や学校での研究内容の共有などはこれまで同様に進めていく必要がある。(再掲)</li> <li>函館市における学校再編の取組は、計画的に着実に進められていると感じる。評価△は厳しすぎるのでは？</li> <li>統合・再編の場合、デメリット・メリットを地域に説明することになると思うのですが、理解されるのに骨が折れる事と存じます。お金の取扱い、PTA役員の再編に関して市のPTA連合会と協力して進めて欲しいと思います。</li> </ul>
P96-97	<p><b>基本目標3 函館への愛着や誇りと未来へ飛躍する力の育成</b>  <b>施策1 函館への愛着や誇りを育む教育の推進</b>  <b>1 地域資源を活用した教育活動の推進 (P96~97)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>副読本や地域資源の映像化、「函館学」の取組は評価されるべきである。</li> </ul>
P98-99	<p><b>2 地域に貢献する教育活動の推進 (P98~99)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関・団体との連携、外部講師、ICTを活用した学習活動を一層進める必要がある。</li> </ul>
P100-101	<p><b>施策2 未来へ飛躍する力を育む教育の推進</b>  <b>1 豊かな国際感覚を育む教育活動の推進 (P100~102)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語に関する授業の充実に向けた教員の研修は不可欠であり、特に英語が堪能な小学校教員の確保が望ましい。</li> </ul>
P103-105	<p><b>2 キャリア教育の推進 (P103~105)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼・小・中・高等学校の発達段階に応じたキャリア教育の推進に取り組むことが重要である。あこがれや願い、夢から具体的な職業体験までをどのように学校教育に組み込むかが課題である。</li> </ul>
P106-107	<p><b>3 科学技術への関心を高める教育活動の推進 (P106~107)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「算数・数学」に関する研修、ICT活用に関する研修については、受講者のニーズやレベルに対応した研修内容を一層充実させる必要がある。</li> </ul>
P108-124	<p><b>基本目標4 生きがいを創り出す生涯学習の推進</b>  <b>施策1 生涯学習活動の促進</b>  <b>1 市民の主体的な学習活動の促進 (P108~124)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍であっても、これだけの事業を企画・実施していることは評価されるべきである。もともと少子高齢化の影響を受けて参加者、利用者が減少傾向にあったが、リーダーバンクの登録者や体験講座受講者、ウィークエンド・サークル参加者等は、H30よりも増加しており大きな成果だと思う。今後は、オンラインでの講演会やセミナー、教室などの実施を検討して集まらずに学べる機会を拡充することも必要だと思う。</li> </ul>
P108	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の宣伝では限界がある。SNSでの発信をさらに進めたほうが良</li> </ul>

P113	<p>いと思う。紙ベースではいなければ無駄になってしまうが、Web上は無駄にならないしかさばらない。参加したいと思う「若い市民」・「子を持つ若年層の市民」は今やSNSが主流と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>放送大学にもかかわらず参加人数が少ない。コロナ禍でもあまり問題ないと感じられる。やはり、現状の宣伝では限界があると感じる。SNSでの発信をさらに進めたほうが良いと思う。</li> </ul>
P118	<ul style="list-style-type: none"> <li>「市のHPで各種講座の月間情報を発信した」とありますが、HPの閲覧数は検討されていますでしょうか？発行部数に比べ新規登録者が少ないことも問題であると感じました。閲覧者数を増やす事を検討いただきたいと考えます。</li> </ul>
P121	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近の若い人にも興味がある内容だと思いました。催しの宣伝を活発にすることで人はもっと集まる事が間違いないと思う。自分の職場の20代前半の後輩たちは山菜、海産物に大変興味があるようだ。函館市にアミューズメントパークが少ないことも要因があると思うが。宣伝次第で興味がある人はたくさんいると思う。</li> </ul>
P125	<p><b>2 学びの成果を生かす活動の促進 (P125)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍であっても、これだけの事業を企画・実施していることは評価されるべきである。もともと少子高齢化の影響を受けて参加者、利用者が減少傾向にあったが、リーダーバンクの登録者や体験講座受講者、ウィークエンド・サークル参加者等は、H30よりも増加しており大きな成果だと思う。今後は、オンラインでの講演会やセミナー、教室などの実施を検討して集まらずに学べる機会を拡充することも必要だと思う。(再掲)</li> </ul>
P126-128	<p><b>施策2 社会教育活動の推進</b></p> <p><b>1 社会教育施設等における学習機会の充実 (P126~128)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍であっても、これだけの事業を企画・実施していることは評価されるべきである。もともと少子高齢化の影響を受けて参加者、利用者が減少傾向にあったが、リーダーバンクの登録者や体験講座受講者、ウィークエンド・サークル参加者等は、H30よりも増加しており大きな成果だと思う。今後は、オンラインでの講演会やセミナー、教室などの実施を検討して集まらずに学べる機会を拡充することも必要だと思う。(再掲)</li> </ul>
P129	<p><b>2 家庭・地域における社会教育活動の推進 (P129)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン開催だと時間・場所の都合がつきやすくなると思います。宣伝次第で参加者がコロナ前より増えてくると思う。</li> </ul>
P130-133	<p><b>基本目標5 心の豊かさを育む文化芸術の振興</b></p> <p><b>施策1 文化芸術活動の促進・支援</b></p> <p><b>1 市民の主体的な文化芸術活動の充実 (P130~133)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍であっても社会教育活動と同様にこれだけの事業を企画・実施していることは評価されるべきである。</li> </ul>
P134-135	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナにかかわらず人数の減少がほぼない。市民の興味と宣伝でここまでできるのかと素晴らしい例だと思いました。</li> </ul>
P134-140	<p><b>2 文化芸術に接する機会の拡充 (P134~140)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍であっても社会教育活動と同様にこれだけの事業を企画・実施していることは評価されるべきである。(再掲)</li> </ul>
P140	<ul style="list-style-type: none"> <li>アウトリーチ事業、芸術教育奨励事業などは、児童生徒にとって芸術にふれたり取り組んだりするために有効な事業であり、様々な課題を解決して継続していく必要がある。</li> </ul>



P141-142	<b>3 文化芸術活動を担う人材の育成 (P141~142)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍であっても社会教育活動と同様にこれだけの事業を企画・実施していることは評価されるべきである。(再掲)</li> <li>・ アウトリーチ事業, 芸術教育奨励事業などは, 児童生徒にとって芸術にふれたり取り組んだりするために有効な事業であり, 様々な課題を解決して継続していく必要がある。(再掲)</li> </ul>
P141	
P143-148	<b>施策2 文化遺産の保存・活用と伝統文化の継承</b> <b>1 文化遺産の保存・活用 (P143~148)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化財建築物や縄文遺跡等について, 児童生徒はもとより市民, 観光客等に一層周知を図る必要がある(発信方法の検討)。</li> <li>・ 学校教育で活用するための財政的支援がさらに必要である。</li> </ul>
	<b>2 伝統文化の継承 (P149)</b> (意見等なし)
P151-157	<b>基本目標6 健やかな心身を育むスポーツの振興</b> <b>施策1 スポーツの振興</b> <b>1 子どものスポーツ機会の充実 (P151~157)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域におけるスポーツ活動や各種スポーツ団体, スポーツ少年団等の指導者も高齢化が進んでおり, 新たな指導者の確保や保護者(母集団)による運営・支援が必要となっている。市としてどのような支援が可能なのか。</li> </ul>
P158-168	<b>2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進と環境の充実 (P158~170)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ライフステージや個々のニーズに対応したスポーツ, 大会等の在り方, 上記と同様に指導者や世話人の確保が大きな課題だと思われる。</li> <li>・ ライフステージや個々のニーズに対応したスポーツ, 運動の目的や留意事項等についての運営者, 指導者, 世話人等の研修が必要である。</li> <li>・ 「HPやリーフレットなどを活用し～」とありますが, SNSを利用して使用率を上げる事が重要と考えます。収入が上がらない限りは市も予算をつけられない状況だと思いますので, 是非使用率を上げる対策が必要だと考えます。</li> </ul>
P164	
P169	
P171	<b>3 競技スポーツの促進 (P171~174)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 競技スポーツの指導者の養成・確保は上記同様に重要な課題であるが, 専門性の高い指導ができるとともに, 燃え尽き症候群や体罰(肉体面, 精神面)などが無い指導ができる指導者の養成・育成が重要である。</li> <li>・ スポーツイベントの開催に向けた資金の補助と競技団体等の財源確保, 参加者・参観者の経費負担等の方法などを検討していく必要がある。</li> </ul>
P172	

## 2 質問、確認事項等

### (1) 学習習慣の定着に向けた取組の推進 (P29 教育指導課)

望ましい生活習慣や学習習慣の定着には家庭の協力が不可欠であるが、生活環境がよくない家庭では日常の生活だけで精一杯な家庭もあると思われる。そのような家庭への協力要請をどのように進めていくのか。

〔回答〕

児童生徒の成長に関わり、学校と家庭のそれぞれの役割を踏まえて、連携することは不可欠です。連携が難しい場合においても、日ごろから児童生徒、保護者と信頼関係を構築し、学校からの発信と支援を継続していくよう働きかけてまいります。また、関係機関等とも連携しながら、望ましい生活習慣や学習習慣の定着を図るよう支援を続けてまいります。

### (2) 体験活動等の充実 (P41 教育政策課)

地域部活動への移行を進めていこうとするスポーツ庁の方針に基づいた対応が求められる。大会引率が可能な部活動指導員の配置は、道教委の対応も必要と考えるが、どうか。

〔回答〕

現在、国において、今後の部活動のあり方について検討を進めているところですが、地域部活動への移行については、地域の実情に応じた形で段階的に進めていく必要があると考えており、部活動指導員の配置も含めて、国の動向を踏まえながら、函館市の部活動のあり方を検討しているところです。

### (3) 体験活動等の充実 (P41 教育政策課)

義務教育の部活動は3年後にはなくなるという事ですが、働き方改革を理由として顧問になりたくてもできない若い先生がいると聞いたことがある。(中略)学校の給料とは別にきちんと手当をあげるような体制が必要だと思う。指導者がいない場合は、CSコーディネーターから引率者を手配できないであろうか。

〔回答〕

国では、令和5年度以降、休日の部活動について、段階的な地域移行を進めることとしており、休日に地域部活動での指導を希望する教師については、兼職兼業の制度を活用し部活動の指導に従事できる体制を整備することについて示されております。

また、地域部活動における指導者の確保については、兼職兼業による教師の活用に加えて、地域人材の活用も考えられるところであり、今後、函館市の実情を踏まえて検討していく必要があると考えております。

### (4) 体験活動等の充実 (P41 教育政策課)

#### 業務改善に向けた推進 (P86 教育政策課)

中体連は今後どのようなようになっていくのか疑問である。名称は変更されるのか？地域のチームも参加することになるのか？合同チームは上の大会には参加できないとも聞く、会費はどうするのか？ご検討いただきたい。

〔回答〕

中体連等の大会の在り方や地域部活動となった際の会費については、国において、検討を進めているところですが、今後、国の動向を踏まえながら函館市においても検討していく必要があると考えております。

(5) 幼児教育の質の向上 (P56 教育指導課)

「幼児教育センターとしての機能」は誤解を招く表現のように感じる。また、現状、そのような機能を果たすことが可能なのか疑問を感じる

〔回答〕

幼児教育センターとは、地域の拠点となり幼児教育に関する教育相談等を行う拠点のことであり、南北海道教育センターが、その幼児教育センターとしての機能を果たすよう役割の充実に努めているところです。

今後は、北海道教育委員会の幼児教育推進センターの研修等を活用するなどして、より一層幼児教育センターとしての機能の充実に努めるよう取り組んでまいります。

(6) 小学校教育との円滑な接続 (P57 教育指導課)

小学校区内の保育園、幼稚園との連絡・連携会議や研修等は小学校が窓口となって進めるべきではないか。

〔回答〕

幼小の連携・接続については、小学校長会校長研修会において、年度末に行う幼児の引継ぎのみならず、校区内の幼児教育機関に年間行事予定表やスタートカリキュラム（生活科年間指導計画等）、学校だより等を配付するなどにより、取組の充実に努めるよう働きかけているところです。

(7) 地域とともにある学校づくりの推進 (P95 学校再編・地域連携課)

函館市における学校再編の取組は、計画的に着実に進められていると感じる。評価△は厳しすぎるのでは？

〔回答〕

学校再編の取組については、これまで、「函館市立小・中学校再編計画」に基づき進めてきたところですが、今後においても、進め方等について検討していく必要があることから、今回の評価としたところです。

(8) 市民の主体的な学習活動の促進 (P118 生涯学習文化課)

「市のHPで各種講座の月間情報を発信した」とありますが、HPの閲覧数は検討されていますでしょうか？発行部数に比べ新規登録者が少ないことも問題であると感じました。閲覧者数を増やす事を検討いただきたいと考えます。

〔回答〕

「まなびっと広場」の新規登録者数は、近年50名前後で推移しておりますが、平成13年度の本事業開始以来、令和3年度末までに延べ3,925名が登録を受けているところです。また、「まなびっと広場」HP閲覧件数を確認したところ、令和3年度は3,512件となっておりますが、今後、この閲覧者数を増やすための効果的な情報提供の手法について検討するなど、さらなる学習活動の促進に取り組んでまいりたいと考えております。

(9) 子どものスポーツ機会の充実 (P151～157 スポーツ振興課)

地域におけるスポーツ活動や各種スポーツ団体、スポーツ少年団等の指導者も高齢化が進んでおり、新たな指導者の確保や保護者（母集団）による運営・支援が必要となっている。市としてどのような支援が可能なのか。

〔回答〕

既存制度であるスポーツ・レクリエーション指導者育成補助金の活用について、さらに周知を図ることにより、新たな指導者の養成・育成を促進してまいります。